

## 4.2 遮断弁の操作方法

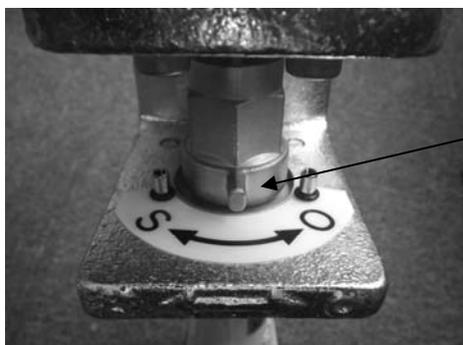
遮断弁の手動操作方法は、口径により異なります。

設置されている遮断弁の口径を確認し、該当項目を参照ください。

遮断弁は全て、出荷時には、電動部OPEN・弁体を手動状態で20%開の状態としています。

### 1) 100A以下の場合

開度表示はソケット部のみとなります。



ソケット指示部  
(写真は50%開状態)

遮断弁の手動・自動は、ソケットの位置で判別できます。

【手動状態】

【自動状態】



赤いラインが見えています。



通常は、赤いラインの見えない自動状態としてください。

自動状態から手動状態にするには、六角形のソケット部を下げると手動となり遮断弁単独で開閉操作が可能となります。

ソケット部を下げる際は、全開時は開方向へ・全閉時は閉方向に回すことで下げられます。

手動状態を自動状態にするには、ソケットを中間開度とし制御盤から開閉操作をすることでソケットが上がり、自動状態になります。

## 5. 保守点検

本システムの性能を維持するために、定期点検を実施してください。

### 1) 動作確認(1年に1回)

4項の試運転の要領により実施確認を行ってください。

### 2) 地震感知器のガル値チェックを3年に1回程度、下記に従って実施してください。

- ① 遮断弁が閉になっても問題ないことまたは、制御盤の電源をOFFにしても問題ないことを確認の上チェックを行ってください。
- ② 盤内の自動一閉操作スイッチにて遮断弁を閉にしてください。  
遮断弁が閉に出来ない場合は、4. 1 (3) の逆手順にて制御盤の全ての電源をOFFにしてください。(盤面の電源ランプが消灯することを確認)  
※ A1/A2端子に配線されている場合は、外部に警報が表示されます。
- ③ 地震感知器のふた(地震感知器 品番⑧)を外してください。
- ④ 水準器調整ネジ(品番②)を取り外してください。
- ⑤ 水準器調整ナット(品番⑥)をベース(品番④)が左右に動かせる程度に緩めてください。
- ⑥ 本体を右側にゆっくり傾け、地震感知器の表示窓(品番⑨)が「赤」に変わったときのベース(品番④)指針が目盛(品番⑤)の赤色の範囲に入っていることを確認してください。(赤色の範囲に入っていれば、設定ガル値は正常です。)
- ⑦ 地震感知器本体を元に戻し、水準が合っていることを確認の上、水準器調整ネジ、ナット(品番②、⑥)をしっかり締めつけてください。
- ⑧ 通電時は地震感知器リセット(遮断弁開スイッチ)を操作して、地震感知器を復帰させてください。制御盤電源OFFの場合は、右側面の手動操作レバーを上へ上げてください。(表示窓が「緑」になることを確認してください。)
- ⑨ 地震感知器のふた(品番⑧)を取り付けてください。
- ⑩ 自動一閉操作スイッチを「自動」に切り替えてください。  
(電源OFFで作業した場合は、各電源スイッチをONにしてください)

※ 地震感知器の品番は、P. 2. 2. 2項の図を参照してください。

注意：この操作は地震感知器調整が正常に行われていないと多少の誤差を生じます。  
誤差が生じた場合は、再度感震器の水準調整をしてください。  
(手順は2. 2項を参照ください)

### 3) バッテリー交換手順

制御盤のバッテリーは、3年に1度の交換が必要です。  
交換時期は盤扉内面に右図のようなラベルで明記されています。  
ラベルには交換手順も記載されていますので、参照して下さい。

バッテリー交換ランプ点灯後は3ヶ月以内に交換をお願いします。

推奨バッテリー：NP2. 3-12 (GSユアサ製) 2個

具体的な交換手順は、次ページの通りです。

- 電池交換は3年に一度行ってください。
- 交換は必ず2個同時に行ってください。
- 電池は同じ型番をご使用ください。
- 電池の種類はシール鉛蓄電池です。  
(適応型番は、下記の通りです)

NP2. 3-12 (GSユアサ)  
LC-P122R2J (パナソニック・エナジー)

- 電池リード線は右図の通り接続してください。

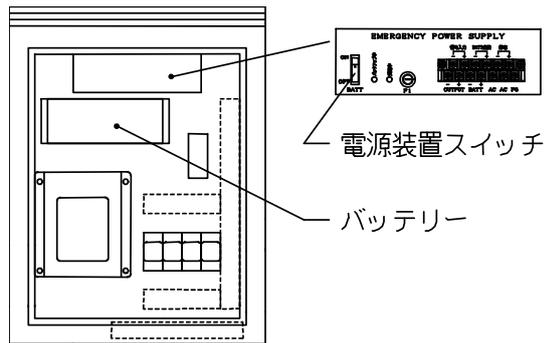
**交換時期**

(電池交換管理表)

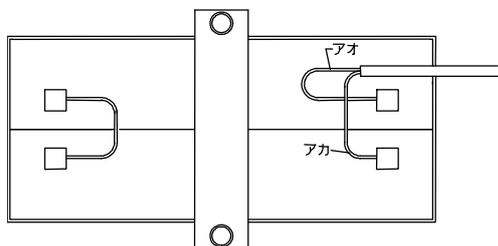
取付け年月		年		月		
No.	交換予定年月	年	月	実施年月	年	月
1	年	月	年	月		
2	年	月	年	月		
3	年	月	年	月		
4	年	月	年	月		
5	年	月	年	月		

- 交換時には、必ず実施年月及び交換予定年月を記入してください。

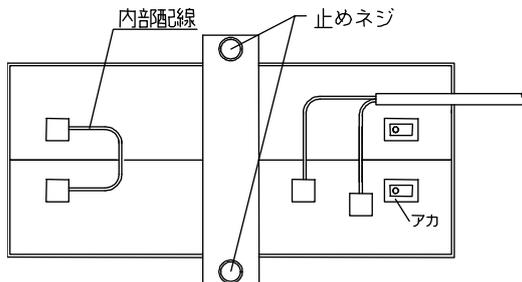
①盤内にある電源装置のスイッチを“OFF”にします。



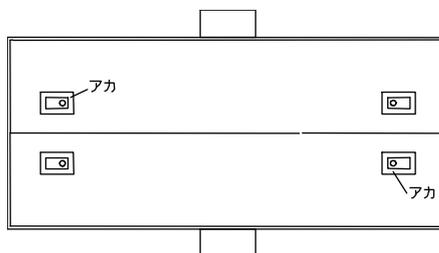
②バッテリーの配線（赤・青）2本を外す。



③バッテリー止めネジと内部配線を外す。



④古いバッテリーを取り出し、新しいバッテリーを方向に注意して挿入する。  
プラス側（赤色）とマイナス側（黒色）が互い違いになるように挿入する。  
その際にバッテリーの端子を接触しないように注意して下さい。



⑤内部配線と配線（赤・青）を接続する。（配線のプラス・マイナスに注意）  
バッテリー固定金具を止めネジで固定する。  
電源装置のスイッチを入れて作業完了です。  
扉内面のラベルに作業年月と次回交換年月を記入して下さい。

## 6. 故障と処置

遮断弁が所定の作動をしない場合は、制御盤によって遮断弁の動作を点検していただいた上、  
下表に従い処置してください。

No.	状 況	原 因	処 置
1	受電中にもかかわらず電源ランプが消灯している。	制御盤の回路に電源が供給されてない。	ブレーカが切れてないか確認してください。
2	制御盤の電源が入らない。 バックアップ表示ランプが点滅	バッテリーコネクタが外れている。 バッテリー残量が不足している。	バッテリーコネクタを確認してください。 コネクタが接続されている場合はバッテリー充電中ですので充電完了までお待ちください。
	バックアップ表示と受電中が交互に点滅する。	遮断弁への配線が間違っています。 使用しない6・8番に配線されています。	P.2 2.3 図を参照し正しく配線してください。
3	遮断弁操作時に制御盤電源がダウンする。 (バックアップ表示ランプが点滅)	バッテリーが消耗している。	バッテリー強制充電中ですので充電完了までお待ちください。
4	制御盤の手動操作スイッチを操作しても遮断弁が動かない。	制御盤の電源、電源装置のBATTスイッチがONしてない。	各スイッチを入れ、通電する。
		制御盤と遮断弁間の接続の間違い	接続図とおりに結線がなっているか確認する。
		遮断弁が手動設定になっている。	6ページの <b>4.2 遮断弁単独の手動操作方法</b> を参照し自動位置にしてください。
		遮断弁に異物が噛み込み、アクチュエータのうなり音がするが、動かない。	遮断弁に噛み込んでいる異物を除去する。
5	地震感知器を手動で作動させたが手を離すと、リセットしてしまう。	地震感知器のロックネジが取り外されていない。	ロックネジを取り外す。
6	地震感知器を手動で操作しても遮断弁が閉弁しない。	自動一閉操作スイッチが「閉」の位置になっている。	自動一閉操作スイッチを「自動」の位置に切り替える。
		制御盤と遮断弁間の接続の間違い	接続図とおりの結線がなっているか確認する。

上記処置で、復旧しない場合は下記に御一報ください。（営業時間外の場合はFAXでお願いします。）  
問い合わせ頂く際は、下記項目をお知らせください。

納入日 ・ 物件名称 ・ 不良内容 ・ 御担当者名 ・ 連絡先電話番号

東洋オートメーション株式会社  
TEL:03-3388-3311 FAX:03-3388-3327